

● ● ● はじめに ● ● ●

「NANDA-I 看護診断定義と分類 2021-2023 原書第 12 版」へ改訂されたことに基づいて解説しています。「原書第 12 版」最初のページに次のようなメッセージが掲載されていました。

NANDA インターナショナル理事会から、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の最前線で働く看護師に本書を捧げます。
皆さんの勇気と献身に敬意を表し。特に患者さんやその家族のケアにあたり命を落とした看護師に哀悼の意を表して。

この度の改訂版は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) がパンデミック (世界的大流行) 中、各国の委員の方々が一同に会した会議は一度もできず、インターネットを介しての会議で検討し完成させた本になったと伺っております。2020 年 1 月にパンデミックを起こしてから 2 年が経過し、3 年目に入りました。現在もおオミクロン株 (変異株 B.1.1.529 系統とも呼ばれています) から変異した形で全世界を闇の中に落とし入れようとしているように見えます。

世界中がパンデミックで、経済が滞り、食料・経済危機が起き 2 年過ぎたころにロシアのウクライナ侵攻により、深刻なエネルギー危機や食糧問題が世界中で起き大変な状況に見舞われております。我が国にもウクライナの方が避難され、生活環境の違いに困惑している状況のなか、健康面や生活支援の援助が優先課題で進んでいます。

このような、緊急事態時は医師・看護師は先頭に立って患者ケアを行うことが求められています。それが我々医療職の宿命でもあり、常日頃から医療に関する情報・判断ができ、実践できるようにありたいものです。

今回の原著の改訂版で説明を付け加えた点として、各看護診断には「定義・診断指標・関連因子」で構成されておりますが、看護診断によっては「ハイリスク群」「関連する状態」という「項目」が、追加され増加しています。そのため、「ハイリスク群」「関連する状態」について説明することにしました。

これらは、「NANDA-I 看護診断定義と分類 原書第 11 版 2018-2020」で初めて導入されました。しかし、原著「第 6 版」での解説の挿入に間に合いませんでした。そのため今回「改訂第 7 版」で説明をいたします。

看護診断の手がかり(診断指標・関連因子・危険因子)を調べようとしても、関連因子を見つけようとしても、看護師独自の介入ではどうすることもできないことが多かったかと思います。そのデータや情報が患者の看護診断を決定する際に役立つこともありました。そのため、看護診断候補を検討する際に参照することができるように、「ハイリスク群」や「関連する状態」として考えることにしました。

「ハイリスク群」や「関連する状態」は、診断推論に役立つ情報ではあるものの、診断の中核になる要素ではないため、NANDA インターナショナル理事会は、これらの要素だけに焦点を当てるようなことはしないように注意喚起をしています。要するに、参考の視点として考える時は良いのですがあくまでも参考程度に留めて欲しいということです。また、看護診断のすべてに「ハイリスク群」「関連する状態」が使われているわけではありません。

「ハイリスク群」とは：社会人口統計学的特性，健康／家族歴，成長／発達段階，特定の人間の反応に及ぼしやすいイベント／経験，を共有する人々とのグループ。このような特性は独自の看護介入では修正・変更できない。

「関連する状態」とは：医学診断，診断法／外科的処置，医療機器／外科装置，あるいは医薬品など。このような状態は，独自の看護介入では修正・変更できない。

2023年版の改訂原稿確認作業中に、これまで経験したことがない状況が世界中を駆け巡り、さまざま考えさせられる思いで「はじめに」を書きました。

2022年7月
古橋 洋子